

## 中間評価・革新的研究調査（FS）評価（案）一覧表

## 【ソフト分野・中間評価】

番号	領域	タイプ	研究課題名とその概要	研究代表者	H21 委託額(万円)	中間評価(案)※
20-1	3	II	課題名	東京大学 特任講師 関本 義秀	1,799	B
			概要			
20-2	4	II	課題名	東京大学 特任教授 石川 雄章	1,870	B
			概要			
20-3	5	I	課題名	徳島大学 大学院教授 山中 英生	1,000	B
			概要			
21-1	1	I	課題名	東京大学 大学院准教授 加藤 浩徳	700	B
			概要			
21-2	3	II	課題名	高知工科大学 教授 熊谷 靖彦	498	C
			概要			
21-3	3	I	課題名	筑波大学 大学院教授 石田 東生	700	B
			概要			

## 【ハード分野・中間評価】

番号	領域	タイプ	研究課題名とその概要	研究代表者	H21 委託額(万円)	中間評価(案)※
20-4	7	II	課題名	岐阜大学 教授 八嶋 厚	913	C
			概要			
20-5	8	I	課題名	名古屋大学 教授 中村 光	1,400	A
			概要			
21-4	8	II	課題名	京都大学 教授 岡 二三生	811	A
			概要			
21-5	8	II	課題名	琉球大学 助教 下里 哲弘	800	B
			概要			

## 【ハード分野・革新的研究調査（FS）評価】

番号	領域	タイプ	研究課題名とその概要	研究代表者	H21 委託額(万円)	FS 評価(案)※※
21-6	4	II	課題名	東京大学 教授 岸 利治	400	D 【不採択】
			概要			

## ※中間評価：研究継続の妥当性評価

A: 現行のとおり推進	研究は順調に実施されており、現行のとおり推進することによって十分な研究目的が達成される見込みである。
B: 現行のとおり推進(指摘事項有り)	研究は順調に実施されているものの、十分な研究目的を達成するためには、評価者からの指摘事項に留意の上、推進することが必要である。
C: 研究計画を修正の上推進	このままでは十分な研究目的の達成が期待できないと思われるので、評価者からの指摘事項を踏まえ、研究計画を修正の上、推進することが必要である。
D: 中止	現在までの進捗状況に鑑み、研究目的の達成が困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。

## ※※革新的研究調査（FS）評価：研究継続（新規課題としての採択）の妥当性評価

A: 新規課題として採択	実現性は十分であると評価する。よって、次年度から新規課題として採択し、引き続き研究を継続する。
B: 新規課題として採択(指摘事項有り)	実現性はあると評価するが、研究目標を十分達成するためには、評価者からの指摘事項に留意が必要。次年度から新規課題として採択し、引き続き研究を継続する。
D: 不採択	実現性はほとんどなく、研究目標を達成することは困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。